

第1学年 保健体育科学習指導案

日 時 平成30年9月28日(木) 5校時

学 級 1年A・B組(男子10名 女子13名 計23名)

授業者 教諭 高橋美樹

支援員 米澤 路

1 単元名 B 器械運動 「マット運動」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、「技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。」
「器械運動に積極的に取り組むとともに、良い演技を認めようとする事、分担した役割を果たそうとする事などや、健康安全に気を配ることができるようにする。」
「器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。」ことをねらいとしている。

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。マット運動は、技に挑戦しその技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

1・2学年のマット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせることが技能面の目標となる。また、運動の行い方や練習方法、安全上の留意点など、学習した内容を活用する力を高めたり、分担した役割を果たしたりすることで、よりよい人間関係を築く力を身につけたりすることのできる教材である。

(2) 生徒観

小学校では、前転、開脚前転、後転、開脚後転、側方倒立回転等を学習している。事前に行ったアンケートでは、前転は全員、後転・側方倒立回転は約6割、開脚前転・開脚後転は約4割が「できる」と答えている。また、「マット運動は好きか」という質問に対して14名が「好き」もしくは「どちらかというが好き」と回答しており、その理由として『できるようになると達成感があるから』『いろいろな動きを身に付けることができるから』ということをあげている。一方で、「どちらかという嫌い」「嫌い」と回答しているのは9名おり、理由として『上手く回ることができないから』『技ができないから』『苦手だから』ということをあげている。

体を動かすことが好きな生徒が多く、普段の保健体育の授業において意欲的に活動しているが、人間関係が固定化しており、特定の友達としか関わろうとしない生徒がいる。また、与えられた課題に対しては一生懸命に取り組むが、学習した内容を使って自分の課題を解決していこうとする力は弱い。

(3) 指導観

生徒が必然性や目的性をもって主体的に学んだり、学びの価値を自覚しながら学習を積み重ねたりできるように、見通す場面と振り返る場面を授業の中に位置づけていく。見通しと振り返りの場面は、単元全体についてと1単位時間について、それぞれ設定する。

苦手な生徒も安心して活動することができるように、単元の始めに、基本技や発展技

の行い方のポイントや練習の仕方を知識として身に付けさせ、次に、思考を働かせながら知識と技能をつなげていき、最後に連続技を完成させるという構成にした。

学習を進めるにあたっては、お互いに関わり合いながら学習を進めることができるように、場面に応じてグループの構成を工夫していく。

3 単元の目標

- (1) 回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせることができるようにする。【技能】
- (2) 器械運動に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たそうとすることなどや健康・安全に気を配ることができるようにする。【態度】
- (3) 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫してできるようにする。【知識、思考・判断】

4 単元の指導計画・評価計画 (12時間扱い 本時8/12)

時数	主な学習活動	評価の観点				評価規準
		関	思	技	知	
1	学習の仕方を知る ・特性や成り立ち ・安全についての約束 ・学習計画	○			○	・積極的に取り組もうとしている。 ・マット運動の特性や成り立ちについて、学習した具体例を学習カードに書いている。
2 3	基本技(前転、開脚前転、後転、開脚後転)の学習 ・行い方のポイント、練習の仕方 ・滑らかにできる	○		○	○	・場の安全を確認し、回転動作前後の体の動かし方に気をつけ、安全に留意して活動している。 ・基本的な技の行い方のポイントや練習の仕方など、学習した具体例を学習カードに書いている。 ・基本的な技が滑らかにできる
4 5 6	発展技(倒立前転、頭はねおき)の学習 ・行い方のポイント、練習の仕方				○ ○ ○	・発展技の行い方のポイントや練習の仕方など、学習した具体例を学習カードに書いている。
7 8 (補) 9	自己の課題を解決するための学習(既習技・発展技) ・役割分担 ・技の合理的な動き方のポイント	○	○			・器具の出し入れや補助などの分担した役割を果たそうとしている。 ・合理的な動き方のポイントを考え見つけている。
10 11	連続技 ・技を組み合わせる ・技の繋ぎ方に気をつけ、積極的に取り組む。	○	○			・仲間の試技を補助したり助言したりしている。 ・技の組み合わせ方を考え、見つけている。
12	発表会 単元の振り返り ・技能の定着			○		滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。

5 本時の指導（8／12時間）

（1）目標

自己の課題を解決するための合理的な動き方のポイントを見つけることができるようにする。【思考・判断】

（2）研究に関わる授業の構想

生徒にとって本時の学習課題が必然性のあるものとなるように、導入の場面において、単元における本時の位置付けを確認し、前時の生徒の振り返りを紹介する。

見通しを持たせる場面では、ゴールの姿と課題を解決する方法を確認する。本時のゴールの姿を、合理的な動き方のポイントを見つけることとし、仲間とお互いの動きを見合ったり、個人で練習の場を選択したりして学習を進めていくことを確認する。

展開の場面においては、生徒が課題を解決するため必要な練習の場を準備したり技のポイントがすぐに確認できるものを掲示したりして、自分で学習が進められるようにする。また、お互いの動きを見合い、出来栄を確認しながら学習できるようペア学習を行う。

終末の場面においては、各自が見つけた、合理的な動き方のポイントについて自分の言葉で振り返りを行い、次時につなげていく。

（3）評価の観点と評価規準

観点	評価規準 (B)	評価資料等
思考・判断	自己の課題を解決するためのそれぞれの技の合理的な動き方のポイントを見つけ、学習カードに記述している。	学習カード

(4) 展開

段階	指導過程	学習活動・学習内容	指導上の留意点◆評価
導入 8分	1 あいさつ 2 準備運動・補強運動 3 既習事項の確認 4 学習課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自の課題がわかるように掲示する。
展開 35分	5 結果と方法の見通し 6 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ゴールの姿を確認する 体をどのように動かせば良いか、動き方のポイントを学習カードに書くことができる。 方法を確認する お互いの動きを見合いながら練習する。 自分の課題を解決するための場と練習を選択し、ポイントを意識して練習する。 (練習の場の設定) ①坂道マット (後転・開脚前転・開脚後転) ②重ねたマット (開脚前転・開脚後転) ③角を重ねたマット (倒立前転) ④ステージの段差 (頭はねおき) ⑤エバーマット (倒立前転・頭はねおき) ⑥マット (すべての技) お互いに、自分のどこを見てほしいかを伝えて見てもらう。 	<p style="text-align: center;">見通し</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 ゴールの姿 「○○(体の部位)を△△したら□□できた(できそうだ)」ということを学習カードに書くことができる。</p> <p>2 方法(練習の進め方) 場：自分で選択、移動可 見合う：見てほしい部分を伝える。動きがどうだったかを伝える。 時間：15分2セット 掲示物：ポイントや練習の仕方を掲示。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 練習の場を放射線状に設定し、全体に声がけをしやすくする。また、教師の立ち位置は、安全面を重視した位置とする。 課題を解決するための手立て(練習の場や練習方法、技のポイント)がわかるよう掲示する。 <p>(予想されるつまずきと手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術的なポイントを意識していない。→各技の技術的なポイントを確認させる。 選択した練習が難しすぎる →各技の段階的な練習方法を確認させる。
終末 7分	7 課題のまとめと学習の振り返り 8 次時の確認	<ul style="list-style-type: none"> 動き方のポイントを学習カードに書き、仲間と交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 顎を引くと背中が丸まり、回転しやすくなった。 倒立前転の倒立のときに顎を上げると、倒立がまっすぐになりそうだ。 </div>	<p style="text-align: center;">振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 学びの自覚と協働学習の楽しさや良さを自覚させる。 </div> <p>◆動き方のポイントを考え、見つけたことを記述している。【思考・判断】</p>

